

Dell™ PowerVault™ NX1950

システム

重要情報

モデル EMU01



メモおよび注意



メモ：コンピュータを使いやすいするための重要な情報を説明しています。



注意：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。
© 2006 ~ 2008 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標： Dell、DELL ロゴ、OpenManage および PowerVault は Dell Inc. の商標です。Microsoft、Windows、および Windows Server は 米国その他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

本書では、必要に応じて上記以外の商標や会社名が使用されている場合がありますが、それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

モデル EMU01

2008 年 2 月

Rev. A06

目次

重要なシステム情報	5
インストールおよびセットアップに 関する問題	9
導入に関する問題	14
管理に関する問題	31
アップグレードに関する問題	54

本書では、お使いの Dell™ PowerVault™ NX1950 ストレージソリューションにインストールされている Microsoft® Windows® Unified Data Storage Server 2003 の重要な情報について説明します。



メモ：本書で内蔵ソリューションという場合は、PowerVault NX1950 ストレージシステムと PowerVault MD3000 ストレージアレイの構成を指します。ゲートウェイソリューションという場合は、PowerVault NX1950 ストレージシステムと Dell/EMC ストレージアレイの構成を指します。詳細については、システムに付属の『設置ガイド』を参照してください。

重要なシステム情報

システムで発生する可能性のある重大な問題とその解決方法を表 1-1 に説明します。

表 1-1 重要なシステム情報

問題	説明	回避 / 解決方法
ノードのフェイルオーバー後にスナップショットが失われる。	ボリュームのプロパティ とスナップショットの設定を選択し確認する作業をクラスターノード内で実行していない場合に、この問題が発生します。空き容量が足りず、設定が正しくないために、その後ノードでフェイルオーバーが発生するとスナップショットが失われるおそれがあります。	スナップショットの正常な機能を保つには、次の手順を実行します。 1 Windows Explorer → ボリュームのプロパティ → .vhd ファイルのあるファイルシステム → シャドウコピー → 設定 の順にクリックします。 2 次のボリューム上に配置 オプションのボリュームエントリに、選択されているボリュームのドライブ文字と同じ値が入っていることを確認します。 3 最大サイズ (デフォルト値は 制限値) がスナップショットを受け入れるのに十分であることを確認します。不十分な場合は、必要な領域に応じて値を変更するか、設定を 無制限 に変更して OK を選択します。 4 デフォルト設定 がスナップショットを受け入れるのに十分な領域である場合は、 ボリュームのプロパティ → シャドウコピー → 設定 タブを開いて、 OK を選択します。

表 1-1 重要なシステム情報 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
ロールバック操作が失敗し、選択した iSCSI スナップショットにシステム状態がロールバックしない。	<p>デフォルトのシステム環境変数パス内の TEMP フォルダ (C:\WINDOWS\TEMP) に iSCSI LUN(.vhd ファイル)の修正されたブロックを受け入れるのに十分な領域がない場合に、この問題が発生します。このイベントは、次の詳細と共に WinTarget イベントとしてアプリケーションイベントログ内に記録されます。</p> <pre>The Microsoft iSCSI could not roll back <virtual disk ID> to the snapshot taken. The operation failed with error code 112</pre>	<p>この問題を回避するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マイコンピュータ を右クリックし、プロパティ → 詳細設定 → 環境変数 の順にクリックします。 2 システム環境変数 セクションで TEMP を選択し、編集 をクリックします。 3 変数値を .vhd ファイルの修正されたすべてのブロックを受け入れるのに十分な領域を持つパス (ボリューム) に変更します。使用可能な領域がロールバックに十分であることがわかっている場合は、デフォルト値をそのまま使用します。 4 ロールバック操作後に、アプリケーションイベントログ に移動し、ロールバックが成功したことを確認します。 <p>メモ : 同時ロールバック操作は行わないでください。</p>

表 1-1 重要なシステム情報（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
RAID フェイルオーバー中にホストでディスクタイムアウトが発生する。	RAID フェイルオーバー中にホストのディスクがタイムアウトします。	<p>メモ：デルサポートサイト support.dell.com から iSCSI Failover Utility をダウンロードし、NX1950 を接続しているホスト上で実行します。このレジストリ修正により、ホスト上のディスクのタイムアウトが 160 秒に変更され、ストレージサブシステム上での RAID フェイルオーバー中にディスクタイムアウトが発生しなくなります。</p> <p>iSCSI Failover Utility は iSCSI セッションを確立する前に実行してください。このユーティリティは、デルサポートサイト support.dell.com からダウンロードできます。</p> <p>iSCSI トラフィック用には別のネットワークを使用することをお勧めします。クラスタがフェイルオーバーするには、iSCSI イニシエータが専用の iSCSI 仮想 IP アドレスを指している必要があります。</p>

表 1-1 重要なシステム情報 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
クラスタのフェイルオーバーが発生すると iSCSI LUN への接続が切れる。	iSCSI ターゲットで: リソースグループに障害が発生すると、クラスタノード上で Microsoft iSCSI Software Target のネットワーク設定がリセットされます。指定した設定は失われ、クラスタノードのパブリック/プライベート IP アドレスを含め、ネットワークの IP アドレスがすべて、iSCSI ストレージのリクエストに対して有効になります。 iSCSI ターゲットがクラスタリソースの一部でない場合、フェイルオーバー中にターゲットへの接続が切れます。	iSCSI トラフィック用には別のネットワークを使用することをお勧めします。iSCSI LUN への接続を再確立するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> Microsoft iSCSI Target Service を停止し、PowerVault NX1950 管理コンソール を閉じます。 cluadmin.exe → グループ → クラスタグループ の順に進みます。 クラスタグループ を右クリックし、新しいリソース を選択します。 新しいリソース ウィンドウで、サービスとして WinTarget と入力し、リソースの種類 は標準リソースを選択します。 依存関係 ウィンドウで、現在のシングルノードクラスタのクラスタ IP アドレス (管理ネットワークのみ)、専用 iSCSI 仮想 IP アドレス、およびクラスタ名を追加します。 software\Microsoft\iSCSI Target にあるレジストリキーを追加します。 WinTarget リソースを選択し、これをオンラインにします。 ファイアウォールを無効にし、%APPDATA%\Microsoft\MMC\nas2 にあるキャッシュファイルを削除します。 Microsoft iSCSI Target Service を開始します。 PowerVault NX1950 管理コンソール を起動します。 <p>メモ: ファイル共有アクセスに使用するのとは別の専用ネットワークに iSCSI トラフィックを設定することをお勧めします。iSCSI Target Service のリソース (クラスタグループ など) が含まれているクラスタグループ内に追加の IP ネットワークリソースを作成します。作成した別のネットワークの IP アドレスを使用して、iSCSI ターゲットに接続する iSCSI イニシエータを設定します。</p>

インストールおよびセットアップに関する問題

クラスタのセットアップまたはソフトウェアのインストール中に発生する可能性のある問題とその解決方法を表 1-2 に示します。

表 1-2 インストールおよびセットアップに関する問題

問題	説明	回避 / 解決方法
OS のインストール中に Windows Unified Data Storage Server 2003 SP2 メディアが要求される。	システムに OS をインストールまたは復元する際に、Windows Unified Data Storage Server 2003 SP2 メディアをセットするように指示されます。	<p>Windows Unified Data Storage Server 2003 SP2 メディアをセットするように求める 1 回目の指示が表示されたら、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1 OK をクリックし、参照 をクリックします。2 C:\Windows\amd64\amd64\ディレクトリに移動し、convlog.ex_ ファイルを選択します。3 開く をクリックします。4 OK をクリックしてインストールを続行します。 <p>MUI パックのインストール中に Windows Unified Data Storage Server 2003 SP2 メディアをセットするようにもう一度指示されたら、以下の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1 OK をクリックします。2 参照 をクリックします。3 C:\Windows\amd64\amd64\lang ディレクトリに移動し、cp.exe.ex_ ファイルを選択します。4 開く をクリックします。5 OK をクリックしてインストールを続行します。

表 1-2 インストールおよびセットアップに関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
Dell ストレージ 初期化ウィザード をアップグ レードする際 に、警告メッ セージが表示 されない。	Dell ストレージ初期 化ウィザードの工場 出荷時のバージョ ンに同ウィザード の新しいバージョ ンを上書きインス トールする際に、警 告メッセージが表 示されません。	これは設計どおりの正常な動作 です。

表 1-2 インストールおよびセットアップに関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
内蔵ソリューションの Dell ストレージ初期化ウィザードで、PowerVault MD3000 ストレージアレイの名前が検証されない。	<p>Dell ストレージ初期化ウィザードで、Configure a Name for your PowerVault MD3000 array (PowerVault MD3000 アレイの名前の設定) フィールドに入力したテキストが検証されません。アレイのフィールドでは、#、@、!、\$、% などの特殊文字はすべて受け付けられますが、サポートされていない文字は別の文字に置き換えられます。テキストの長さが 30 文字を超えると、エラーメッセージが表示されることなく、PowerVault MD3000 ストレージアレイの以前のアレイ名が使用されます。</p>	<p>アレイ名を設定する際には、次のガイドラインに従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アレイ名にスペースを使用しない。 • アレイ名に #、@、!、\$、% などの特殊文字を使用しない。 • アレイ名を 30 文字以内にする。

表 1-2 インストールおよびセットアップに関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
ファイアウォールスクリプトが自動的にインストールされない。	ファイアウォールスクリプトは、Dell Systems Build and Update Utility メディアから自動的にインストールされません。	正確なインストール手順については、デルサポートサイト support.dell.com で Dell PowerVault NX1950 システムの『導入ガイド』を参照してください。
IIS がデフォルトでインストールされる。	IIS コンポーネントは工場出荷時にインストールされており、Dell PowerEdge Installation and Server Management メディアを使用して Windows Unified Data Storage Server 2003 x64 を復元する場合にもデフォルトでインストールされます。	これは設計どおりの正常な動作です。IIS は PowerVault NX1950 ストレージソリューションの前提条件です。

表 1-2 インストールおよびセットアップに関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
仮想ディスクサービス (VDS)/ ボリュームシャドウコピーサービス (VSS)プロバイダのインストーラが、ユーザーにシステムの再起動を指示するメッセージを表示しない。	PowerVault NX1950 ストレージソリューションと PowerVault MD3000 ストレージレイに VDS/VSS プロバイダをインストールした後、インストーラはユーザーにシステムの再起動を指示するメッセージを表示せず、 Storage Management コンソールが予期せぬ動作をします。	VDS/VSS プロバイダのインストール後にシステムを再起動してください。

導入に関する問題

PowerVault NX1950 ストレージソリューションの導入時に発生する可能性のある問題とその解決方法を表 1-3 に示します。

表 1-3 導入に関する問題と対処法

問題	説明	回避 / 解決方法
RAID 1 と RAID 10 がどちらも RAID1_0 として報告され、 mirrored (ミラー化されている)と表示される。	RAID 5 またはミラー化された LUN のどちらを作成するかを選択できます。ミラー化された LUN を作成する場合、デフォルトはディスク 2 台の構成です。これは実際には、パリティなしのミラーリングによるストライピングであり、ミラー化された LUN ではありません。	これは設計どおりの正常な動作です。
ゲートウェイソリューションで、PowerPath アプリケーションがエラーを記録する。	ゲートウェイソリューションでは、Windows Unified Data Storage Server 2003 Standard Edition から Enterprise Edition にアップグレードした後で、またはドメインに参加した後で、PowerPath のエラーが発生する場合があります。	Repair (修復)オプションを使用して PowerPath を再インストールします。ドメインコントローラに対する管理者特権があることを確認してください。

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
PowerVault NX1950 クラスタ上で単一インスタンス記憶域(SIS)を有効にすると、クラスタリソースが原因でエラーが発生する。	PowerVault NX1950 クラスタの共有物理ディスクリソース上の SIS を有効にし、(いずれかの共有物理ディスクと共に)グループの移動を試みると、リソースがノード間を移動せず、最終的に失敗します。他の物理ディスクも同様に失敗する場合があります。	<p>この問題は Microsoft が現在調査中です。</p> <p>クラスタ環境で SIS が設定済みの場合は、SIS を無効にするか、または次の手順を実行してボリュームを「非 SIS 化」するという方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIS の無効化（推奨） <ul style="list-style-type: none"> a リソースの（移動の）失敗から回復するには、クラスタノードを 1 台ずつ再起動します。こうすることで、リソースが強制的にノードに移動します。 b 物理ディスクを所有しているノードでコマンドプロンプトを開き、コマンド <code>sisadmin /d</code> を実行します。 c グループをもう一方のノードに移動し、同じ手順を実行します。この手順により、Groveler サービスが停止し、リソースが正常にフェイルオーバーできるようになります。

表 1-3 導入に関する問題と対処法 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>操作中に Microsoft 管理コンソール がハングする。</p>	<p>操作の実行中に Microsoft 管理コンソール が反応しなくなる(ハング)ことがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 共有物理ディスクの「非 SIS」化 <ul style="list-style-type: none"> a 共有物理ディスク上のデータのバックアップを取ります。 b ボリュームを削除し、再作成します。 c バックアップデータを復元します。 <p>この問題を回避するには、次のいずれかの手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft 管理コンソール を閉じて、再起動します。 • システムからログオフし、再度ログオンし、Microsoft 管理コンソール をもう一度開きます。 • システムを再起動します。
<p>Microsoft 管理コンソールと PowerVault MD Storage Manager に表示されるスロット番号が一致しない。</p>	<p>PowerVault NX1550 Microsoft 管理コンソール では、ストレージエンクロージャのスロット番号は 1 ～ 15 までです。PowerVault MD Storage Manager では、同じスロットに 0 ～ 14 の番号が割り当てられています。</p>	<p>この問題を回避する方法はありません。</p>

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
利用可能なディスクからクォーラムディスクが自動的に作成される。	PowerVault NX1950 管理コンソール は、ディスクまたはボリュームにデータが存在しても、利用可能なディスクまたはボリュームからクォーラムディスクを自動的に選択します。ただし、ディスクまたはボリューム内の既存のデータは消去されません。	これは設計どおりの正常な動作です。クォーラムディスクをユーザーが選択することはできません。クラスタを作成する前に、ストレージレイ上にストレージスペースを割り当てて、RAID 1 のボリュームを利用可能にしておくことをお勧めします。
内蔵ソリューションで、パスワードで保護された PowerVault MD3000 アレイがサポートされない。	Dell ストレージ初期化ウィザード は、パスワードで保護された PowerVault MD3000 アレイを設定することができません。設定が失敗したことを示すエラーメッセージも表示されません。	PowerVault MD3000 ストレージアレイをパスワードで保護しないでください。または SMReg ツールを使用してパスワードを設定してください。このツールは VDS プロバイダの一部であり、インストールディレクトリ内にあります。

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
Microsoft の NFS サービスがドメイン名を検証しない。	Microsoft の NFS サービスのプロパティ ウィンドウの Active Directory ドメイン フィールドにはどんな値を入力しても受け入れられ、このフィールドの値は、そのドメイン名が存在するかどうかの検証がなされません。これは、ドメイン内で NFS サービスにアクセスする際に問題となります。	この問題を回避するには、 Identity Mapping (ID のマッピング)ウィザードを使用してドメイン名を検証してください。このウィザードは、 Microsoft の NFS サービス コンソールから起動できます。
LUN のサイズを超えるクォータ制限を設定しても、エラーメッセージが表示されない。	LUN のサイズを超えるクォータ制限を設定しても、 PowerVault NX1950 管理コンソール には警告メッセージが表示されません。	クォータ制限を設定する前に LUN またはボリュームのサイズを確認してください。
PowerVault MD3000 ストレージアレイで、新しい LUN がディスクグループ内に作成されない。	すべてのディスクがディスクグループに割り当てられている場合、 PowerVault NX1950 管理コンソール を使用してディスクグループ内の利用可能な空き容量に LUN を作成することはできません。	<ul style="list-style-type: none"> 既存の LUN のサイズを拡張してください。 または <ul style="list-style-type: none"> PowerVault MD Storage Manager を使用して LUN を作成し、手動で LUN をシステムに割り当ててください。

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>ネットワークファイルシステム(NFS)を使用して共有ボリュームをマウントしようとする、Linux クライアントにエラーが表示される。</p>	<p>Linux クライアントで共有をマウントしようすると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre>mount: <NASServerName>: /<ShareName>: can't read superblock(スー パーブロックを読み込め ません。)</pre>	<p>これを回避するには、以下の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 管理ツール → ローカルセキュリティポリシー → ローカルポリシー / ユーザー権利の割り当て → 走査チェックのバイパス の順にクリックします。 2 ユーザーまたはグループの追加 をクリックし、匿名ログオンを追加し、OK をクリックして適用します。 3 Linux クライアントのコマンドプロンプトで次のコマンドを実行してから、サーバーを再起動します。 gpupdate /server

表 1-3 導入に関する問題と対処法 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>認証されていないユーザーが Dell EMC アレイでストレージを構成できる。</p>	<p>Dell EMC アレイで特権のあるユーザーのリストが作成される前に、管理者権限を持つユーザーならだれでも、SAN 用記憶域マネージャと 記憶域の準備 ウィザード内で正常に操作を行うことができます。権限のあるユーザーのリストが作成されると、リストに載っていない管理者ユーザーはすべて、ストレージアレイにアクセスし、作成された LUN を管理することができなくなります。</p>	<p>Dell ストレージ初期化ウィザード を実行し、アレイにログインします。権限のあるユーザーのリストが作成済みのため、権限のないユーザーはストレージアレイにアクセスできません。</p>
<p>アイドル状態時にタスクを実行するデフォルトタイムが 10 分で、リセットできない。</p>	<p>アイドル状態時にタスクを実行 の値は変更できません。入力した値は残らず、デフォルト値(10 分)が使われます。</p>	<p>これは既知の問題です。</p>

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>最初のボリュームで単一インスタンス記憶域(SIS)を有効に設定すると、以降のボリュームの SIS が無効になる。</p>	<p>ボリュームのプロパティ ウィンドウの 詳細 タブを使用して最初のボリュームの SIS を有効にすると、SIS は以降のボリュームで無効になり、エラーメッセージも表示されません。</p>	<p>この問題を回避するには、コマンドプロンプトから次のコマンドを実行して、SIS 機能を完全に有効にします。 <code>sisadmin /i <ボリューム></code></p> <p>GUI を使って以降のボリュームで SIS を有効にすると、SIS サービスは停止します。その場合は、各ボリュームで services.msc アプリケーションを使用して SIS サービスを手動で再開する必要があります。</p> <p>詳細については、Microsoft サポートサイト support.mircrosoft.com で技術情報の記事 913109 を参照してください。</p>

表 1-3 導入に関する問題と対処法 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
PowerVault MD3000 アレイを使用してプライベート LUN を作成する際の制約。	LUN の作成時に 記憶域の準備 → サーバーの割り当て で このサーバーのみ オプションを選択したにもかかわらず、クラスタ内のすべてのノードに LUN が割り当てられます。	プライベート LUN の作成は、 Dell PowerVault MD Storage Manager を使用して手動で行う以外にありません。詳細については、デルサポートサイト support.dell.com で Dell PowerVault Modular Disk Storage Manager の『ユーザーズガイド』を参照してください。
8 MB 未満のボリュームをフォーマットしようとすると、 記憶域の準備 ウィザードにエラーが発生する。	記憶域の準備 ウィザードを使用して 8 MB 未満 の LUN 上にボリュームを作成しようとすると、ボリュームのフォーマットができません。	これは既知の問題です。
NFS サービスを開始または停止するとエラーメッセージが表示される。	Microsoft の NFS サービスから ユーザー名のマッピング 、 NFS 用のクライアント 、または NFS 用のサーバー サービスの開始または停止を行おうとすると、次のエラーメッセージが表示されます。 Unspecified user	これは設計どおりの正常な動作です。この操作を実行するには、Administrator としてログインする必要があります。

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
記憶域の準備ウィザードで、PowerVault MD3000 ストレージアレイがファイバーチャネルとして表示される。	記憶域の準備ウィザードでは、Dell PowerVault MD3000 ストレージアレイが、ファイバーチャネル接続ではなくてもファイバーチャネルとして表示されます。	これは既知の問題です。
Dell ストレージ初期化ウィザードの初期化が終了した後で、Dell 初期設定タスクウィザードまたは PowerVault NX1950 管理コンソールが起動しない。	この問題が発生するのは、設定が完了する前に Dell ストレージ初期化ウィザードにエラーが発生し、終了したためです。場合によっては、ユーザーが何もしなくてもエラーメッセージが画面から消えることがあります。	これは既知の問題です。この問題を解決するには、デルテクニカルサポートにお問い合わせください。
PowerVault NX1950 設定タスクウィザードの Dell OpenManage™ ヘルプウィンドウが言語の設定に関係なく英語で表示される。	Dell OpenManage™ ヘルプウィンドウは英語で表示され、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、中国語（簡体字、繁体字）、スペイン語など、ユーザーが選択した環境の言語では表示されません。	これは既知の問題です。

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
Dell ストレージ初期化ウィザードが応答しなくなる場合があります。	Dell ストレージ初期化ウィザードを使用してシステムを設定している時にデスクトップがロックされると、同ウィザードが応答しなくなる場合があります。	<p>以下の手順を実行します。</p> <p>1 Windows タスクマネージャ を使用して、Dell ストレージ初期化ウィザード アプリケーションを終了します。</p> <p>2 PowerVault NX1950 管理コンソール から Dell ストレージ初期化ウィザード を再起動します。スタート → すべてのプログラム → 管理ツール → Windows Unified Data Storage Server の順にクリックします。</p>
Microsoft エラー報告に Dell ストレージ初期化ウィザード のアプリケーションエラーが表示される。	<p>メモ : Dell ストレージ初期化ウィザードを実行中に終了すると、このエラーが発生します。</p> <p>Dell ストレージ初期化ウィザード の使用中に、Microsoft エラー報告に次のアプリケーションエラーメッセージが表示されます。</p> <p>Some unexpected errors have happened to the software you recently used (最近使用したプログラムで予期しないエラーが発生しました。)</p>	この問題を回避するには、 Dell ストレージ初期化ウィザード を中断せずに最後まで実行してください。

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
Windows ファイアウォールの有効化。	<p>以下のポートが開いている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • UDP ポート = 80: http • UDP ポート = 111: Portmap UDP • UDP ポート = 1048: NFS MountUDP • UDP ポート = 2049: NFS Server UDP • UDP ポート = 1047: NFS Lock UDP • UDP ポート = 1039: NSM UDP • UDP ポート = 162: SNMP • UDP ポート = 2162: Array Init 1 • UDP ポート = 2163: Array Init 2 • UDP ポート = 137: NetBIOS Name Service • UDP ポート = 138: NetBIOS Datagram Service • TCP ポート = 80: IIS • TCP ポート = 135: RPC • TCP ポート = 3260: iSCSI • TCP ポート = 111: Portmap TCP • TCP ポート = 1048: NFS Mount • TCP ポート = 2049: NFS Server TCP • TCP ポート = 1047: NFS Lock • TCP ポート = 1039: NSM 	<p>ファイアウォールスクリプトをダウンロードする手順と場所については、デルサポートサイト support.dell.com で Dell PowerVault NX1950 システムの『導入ガイド』を参照してください。</p> <p>メモ： この問題の解決手順を開始する前に、十分なセキュリティ措置が施されていることを確認してください。</p>

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
	<ul style="list-style-type: none"> • TCP ポート = 25: Storage Processor • TCP ポート = 443: Java CLI/Secure • TCP ポート = 137: NetBIOS TCP • TCP ポート = 139: NetBIOS Session Service • TCP ポート = 445: SMB over TCP • TCP ポート = 3389: Remote Desktop 	
<p>操作 ペインに 操作の一覧 の代わりに その他の操作 が表示される。</p>	<p>PowerVault NX1950 管理コンソール の操作 ペインには、メニュー名が 操作の一覧 ではなく その他の操作 として表示されます。その他の操作 をクリックすると、メニューが表示されます。この問題は以下のコンソールで見られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft の NFS サービス • iSCSI Software Target • インデックスサービス • ローカルユーザーとグループ • イベントビューア • パフォーマンスログと警告 	<p>これは設計どおりの正常な動作です。</p>

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）


問題	説明	回避 / 解決方法
Windows Unified Data Storage Server 2003, Standard Edition では、自動フェイルバックがデフォルトで有効になっていない。	PowerVault NX1950 ソリューションソフトウェアでは、リバランシングを有効にするように LUN_Rebalance レジストリキーを設定することができません。そのため、自動フェイルバックが行われません。  注意： レジストリに意図しない変更が施されると、問題が発生するおそれがあります。	フェイルバックを手動で有効にするには、デルサポートサイト support.dell.com で Dell PowerVault MD3000 の『ユーザーズガイド』を参照してください。
ゲートウェイソリューションで、システム構成 (symcfg) にどのユーザーも加えられていない状態で、LUN の作成が許可される。	この問題は、次の場合に発生します。 <ul style="list-style-type: none"> 各ストレージプロセッサの特権ユーザーリストに権限を持つユーザーが誰も加えられていない。 各ストレージプロセッサの特権ユーザーリストに無効なユーザーが加えられている。 agent.config ファイルに権限を持つユーザーが手動で加えられている。 	これは設計どおりの正常な動作です。
ゲートウェイソリューションで、ストレージグループがいっぱいであるにもかかわらず、 LUN の作成ウィザード にエラーが表示されない。	ストレージグループに割り当てることができる LUN は最大 256 までです。 SAN 用記憶域マネージャ コンソールを使用して、その数を超える LUN を作成しても、そのストレージグループに割り当てすることはできません。また、イベントログに警告メッセージもエラーメッセージも記録されません。	これは既知の問題です。

表 1-3 導入に関する問題と対処法 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
I/O 実行中にボリュームの拡張ができない。	拡張するボリュームで LUN の拡張も必要な場合、I/O 実行中のボリュームの拡張は失敗します。	<p>I/O 実行中にボリュームを拡張するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SAN 用記憶域マネージャ コンソールを使用して LUN を拡張します。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Diskpart を使用して LUN を拡張します。Diskpart 詳細については、Microsoft のサポートサイト support.microsoft.com を参照してください。
NIC のチーム化が iSCSI でサポートされていない。	Microsoft の仕様により、NIC のチーム化はファイルプロトコルでのみサポートされており、iSCSI ではサポートされていません。	<p>NIC のチーム化の詳細については、Microsoft Windows Server® 2003 テクノロジセンターのウェブサイト www.microsoft.com/windowsserver2003/technologies を参照してください。</p>

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
ゲートウェイソリューションで、ユーザー名にスペースが含まれていると VDS プロバイダの初期化が失敗する。	<p>Dell ストレージ初期化ウィザード を使用して Dell EMC アレイを設定する際に、アレイ管理者のユーザー名とパスワードを入力する必要があります。管理者のユーザー名にスペースが含まれていると、Dell ストレージ初期化ウィザード は正常に完了しますが、共有と記憶域の管理 ウィザードには VDS 初期化エラーが表示されます。</p>	アレイ管理者のユーザー名にスペースが含まれていないことを確認してください。
ゲートウェイソリューションで、LUN をサーバーとクラスタのどちらにも割り当てることができない。	SAN ストレージマネージャ経由で LUN の作成を試みると、 LUN をサーバーまたはクラスタに割り当てる 手順でエラーが発生します。	Navisphere を使用し、ログインして任意のストレージアレイを右クリックし、 プロパティ を選択します。 プロパティ ウィンドウで、 ストレージアクセス タブを選択し、 アクセス管理を有効にする チェックボックスにチェックを入れます。

表 1-3 導入に関する問題と対処法（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
ゲートウェイソリューションで、クォーラムディスクをクラスタに割り当てることができない。	SAN ストレージマネージャ経由で LUN の作成を試みると、 LUN をサーバーまたはクラスタに割り当てる 手順でエラーが発生します。	Navisphere を使用し、ログインして任意のストレージアレイを右クリックし、 プロパティ を選択します。 プロパティ ウィンドウで、 ストレージアクセス タブ を選択し、 アクセス管理を有効にする チェックボックスにチェックを入れます。 Dell ストレージ初期化ウィザード を再実行します。

管理に関する問題

PowerVault NX1950 ストレージソリューションで管理作業を行う際に発生する可能性のある問題と回避 / 解決方法を表 1-4 に示します。

表 1-4 管理に関する問題

問題	説明	回避 / 解決方法
Microsoft 管理コンソール がハングする。	Async (非同期)機能によって複数の SAN ストレージマネージャ の準備処理が並行して実行されると、 Microsoft 管理コンソール がハングする場合があります。	5 つ以上の準備処理を同時に行わないでください。
LUN にアクセスできない。	SAN ストレージマネージャ を使用して LUN が正常に作成されたにもかかわらず、 ディスクの管理 ウィザードから LUN にアクセスできません。	SAN ストレージマネージャ を使用して LUN が正常に作成されてから、初期化に数分かかる場合があります。LUN にアクセスする前に、LUN の初期化が 100 パーセント完了していることを確認してください。
表示される LUN の容量が正しくない。	SAN ストレージマネージャ を使用して複数の Async (非同期)LUN を作成している間、使用可能な容量が正確に表示されません。	LUN が完全に初期化されるまでは、VDS プロバイダは、準備処理が行われる前の古い使用可能 / 通知容量を報告します。

表 1-4 管理に関する問題 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
ゲートウェイソリューションで、LUN の容量拡張が失敗する場合があります。	最大 LUN サイズは、以前に通知されていた最大 LUN サイズに達してから拡張されます。ただし、場合によっては新しく通知された容量への拡張が失敗することがあります。	これは、Dell EMC ストレージアレイ使用時の制限です。
LUN の拡張が失敗します。	同じディスクグループ内に異なるディスクタイプ (FC, SAS, SATAx) が含まれている場合、LUN の拡張が失敗します。	異なるディスクタイプの組み合わせはサポートされていません。
NT バックアップが失敗する。	EMC VSS ハードウェアプロバイダをインストールし、AX4-5 を使用した場合、NT バックアップが失敗することがあります。	VSS ハードウェアプロバイダがインストールされている場合、EMC AX4-5 アレイを使用した NT バックアップはサポートされていません。この問題を回避するには、VSS ハードウェアプロバイダをアンインストールします。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
Symantec Backup Exec が例外でパスする。	EMC VSS ハードウェアプロバイダがインストールされている場合、AX4-5 ストレージアレイ上で Symantec Backup Exec が失敗することがあります。	VSS ハードウェアプロバイダがインストールされている場合、EMC AX4-5 ストレージアレイを使用した Symantec バックアップはサポートされていません。この問題を回避するには、VSS ハードウェアプロバイダをアンインストールします。
内蔵ソリューションで LUN の拡張が失敗する。	LUN の拡張が失敗します。	この問題を解決するには、拡張を試みている LUN が初期化済みであることを確認します。LUN が初期化済みであることを確認するには、 スタート→プログラム→Dell MD Storage Manager の順にクリックします。LUN の初期化が実行中の場合は、初期化が完了するのを待ちます。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
LUN を 2 TB を超えるサイズに拡張できない	既存の LUN を 2 TB を超えるサイズに拡張しようとしても、失敗します。	<p>この問題を回避するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 変換する基本マスターブートレコード (MBR) ディスク上の全データを GUID パーティションテーブル (GPT) ディスクにバックアップまたは移動します。ディスクにパーティションもボリュームもない場合は、手順 3 に進みます。データのバックアップは次の手順で行います。 <ol style="list-style-type: none"> a Share and Storage Provision (共有とストレージの準備) ウィザードを使用して、ボリュームの共有を停止します。 b <code>Clu-admin</code> を起動します (オフラインにして削除します)。 c クラスタグループへのボリュームの割り当てを解除し、SMFS を使用してローカルサーバーに割り当てます。 2 ディスクの管理 ウィンドウを使用してディスクを再スキャンし、extend (拡張) ステータスをアップデートします。 3 コマンドプロンプトで、<code>diskpart</code> と入力します。 4 ディスクにパーティションもボリュームもない場合は、手順 c に進みます。 5 DISKPART プロンプトで、次のように入力します。 <ol style="list-style-type: none"> a <code>list volume</code> そして、削除するボリュームの番号を記録します。 b <code>select volume</code> c <code>delete volume</code> d <code>list disk</code> そして、GPT ディスクに変換するディスクのディスク番号を記録します。 e <code>select diskn</code> f <code>convert gpt</code>

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
		<p>6 GPT ディスクフォーマットに変換した後で、このボリュームにドライブ文字を割り当てます。Diskpart を使用して新しいボリュームを選択し、拡張します。ディスクの管理 ウィンドウを使用して、新しいボリュームのサイズが正しいことを確認します。このボリュームをリソースとしてクラスタグループに追加します。共有と記憶域の管理 インタフェースを更新します。</p>
<p>LUN がフェイルオーバーしない。</p>	<p>SAN ストレージマ ネージャの Assign (割り当て)機能は、LUN/ ボリュームをホストに開示するだけで、クラスタグループや HA インスタンスへの割り当ては行いません。</p>	<p>LUN/ ボリュームをクラスタグループに含めるには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 LUN をクラスタに割り当てます。 2 Dell PowerVault Modular Disk Storage Manager で、LUN が ホストグループ に割り当てられていることを確認します。 3 ディスクの管理 で、ディスクが基本ディスクであることを確認し、ドライブ文字を割り当てます。 4 スタート → 管理ツール → クラスタアドミニストレータ の順にクリックして、Cluster Administration を起動します。クラスタグループ を右クリックし、新しいリソース を選択します。 5 以下の必須情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - 名前 - 説明 - リソースの種類： 物理ディスク を選択 - グループ： クラスタグループ を選択

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
		6 次へ をクリックします。
		7 すべてのクラスタノードが 実行可能な所有者 ウィンドウ内にあることを確認し、 次へ をクリックします。
		8 次の依存関係を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - クラスタ IP アドレス - クラスタ名 - 選択した物理ディスク
		9 追加 をクリックし、次に 次へ をクリックします。
		10 ウィザードの手順を完了し、 完了 をクリックします。
		11 リソース を右クリックし、 オンライン を選択します。これでディスクがクラスタの一部になりました。
		12 共有と記憶域の管理 ウィンドウで、 ボリューム タブ を更新します。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
共有の準備 ウィザード で既存の共 有フォルダ 内に共有を 作成するこ とができ、 現在のファ イル設定が 消去される ことを示す 警告メッ セージも 表示され ない。	共有と記憶域の管理 ウィザードでは、 既存の共有フォル ダ内に新しい共有 フォルダを作成す ることができ、そ れを作成すると既 存の共有フォルダ の ファイルスク リーン 設定が消去 されることを示す 警告メッセージも 表示されません。 共有と記憶域の管理 ウィザードの 共有 タブ 内のすべての 共有の ファイルス クリーン 設定に チェックマークが 入っていますが、 共有に適用される のは、最後の ファ イルスクリーン 設 定だけです。	これは既知の問題です。

表 1-4 管理に関する問題 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
Power-Vault MD3000 ストレージアレイのフェイルオーバー時間が長い。	PowerVault NX1950 ストレージソリューションは、シングルまたはデュアルのシリアル接続 SCSI (SAS) ホストバスアダプタ (HBA) コントローラを介した冗長バスをサポートしています。PowerVault NX1950 ストレージソリューションが単一のコントローラを介して冗長バスをサポートするように設定すると、入出力の負担が大きい場合にはフェイルオーバーにかかる時間が長くなります。ただし、フェイルオーバーが遅れてもデータが失われることはありません。	詳細については、Microsoft サポートサイト support.microsoft.com で技術情報の記事 940467 を参照してください。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
ファイルサーバーリソースマネージャをアンインストールして再インストールすると、PowerVault NX1950 管理コンソール内にスナップインが2つ表示される。	ファイルサーバーリソースマネージャをアンインストールして再インストールすると、コンソールが 共有と記憶域の管理 ウィザードと PowerVault NX1950 管理コンソール の下にそれぞれ表示されます。	PowerVault NX1950 管理コンソール の下に表示されるスナップインは無視して構いません。
クラスタ内のフェイルオーバーボリュームのLUNタイプが シンプル として表示される。	共有と記憶域の管理 ウィザードでは、フェイルオーバーするすべてのボリュームが シンプル として表示されます。	RAID のタイプを更新するには、次の手順を実行します。 1 ボリュームが シンプル として表示されている2番目のノードで、 ディスクの管理 に進みます。 2 共有と記憶域の管理 → ボリューム の順に進み、 更新 をクリックします。
クラスタ内のボリュームのLUNタイプが 不明 として表示される。	クラスタ内のパッシブノードから作成されたボリュームのLUNタイプが、アクティブノードの 共有と記憶域の管理 ウィザードで 不明 として表示されます。	ディスクの管理 ウィンドウを開き、更新を行います。 共有と記憶域の管理 ウィザードに戻り、更新を行います。これで、すべてのLUNが正しく表示されます。

表 1-4 管理に関する問題 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
Microsoft Cluster Services でシャドウコピーの復元が失敗する。	クラスタグループの一部であるボリュームのシャドウコピーを復元している時に、エラーメッセージが表示されます。	ボリュームをクラスタリソースから削除し、シャドウコピーを復元します。復元が成功したら、ボリュームをクラスタグループに戻します。詳細については、Microsoft サポートサイト support.microsoft.com で技術情報の記事 945361 を参照してください。
ファイルサーバーリソースマネージャをアンインストールした後で共有の準備ウィザードを起動すると、storage-mgmt.dll コンソールエラーが発生する。	プログラムの追加と削除を使用してファイルサーバーリソースマネージャをアンインストールした後で共有の記憶域の管理ウィザードから共有の準備ウィザードを実行すると、次のエラーメッセージが表示されます。 Unhandled exception in managed code snap-in (マネージコードスナップインにおける未処理の例外) PowerVault NX1950 管理コンソール から共有の記憶域の管理ウィザードが削除されます。	ファイルサーバーリソースマネージャを再インストールするには、次の手順を実行します。 1 コントロールパネル → プログラムの追加と削除 → Windows コンポーネントの追加と削除 → 管理とモニタツールの順に進みます。 2 ファイルサーバーリソースマネージャを選択します。 メモ ：ファイルサーバーリソースマネージャを再インストールすると、 PowerVault NX1950 管理コンソール には 2 つの似たコンソールが表示されます。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>ボリュームに割り当てられている利用可能なドライブ文字が、SAN 用記憶域マネージャ コンソールによって削除されない。</p>	<p>LUN の作成操作を間隔を置かずに 2 回続けて実行すると、利用可能なドライブ文字が SAN 用記憶域マネージャ コンソールによって削除されません。この問題は、ボリューム作成エラーに関するエラーメッセージによって示されます。</p>	<p>この問題を回避するには、ディスクの管理 コンソールを使用してボリュームを手動で作成するか、または使用されているドライブ文字が SAN 用記憶域マネージャ コンソールから削除されるまで数秒待ちます。</p>
<p>ディスクの管理 コンソール内の削除済みのドライブまたはボリュームが原因で、システムがクラッシュする。</p>	<p>SAN 用記憶域マネージャ コンソールを使用してボリュームを削除しても、そのボリュームは ディスクの管理 コンソールの下に引き続き表示されます。削除したはずのボリュームを選択すると、PowerVault NX1950 管理コンソール がクラッシュします。</p>	<p>この問題を回避するには、共有と記憶域のマネージャ コンソールを使用してボリュームを削除します。</p>

表 1-4 管理に関する問題 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
Windows アプリケーションログに VDS エラーが報告される。	LUN の作成または削除中に、Windows アプリケーションログに次のエラーメッセージが報告されます。 Storage Manager for SANs encountered the following error(s) while loading information from Virtual Disk Service (VDS) or VDS hardware provider(s). Some of the functionality may not be available on the hardware provider(s).	この問題を回避するには、 SMReg ツールを使用してストレージレイにパスワードを設定します。

表 1-4 管理に関する問題 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
	<p>(SAN 用記憶域マネージャが仮想ディスクサービス (VDS) または VDS ハードウェアプロバイダから情報を読み込む際に、次のエラーが発生しました。ハードウェアプロバイダで一部の機能が利用できない場合があります。)</p> <p>LUN - 'www' IVdsDisk.QueryExtents 'System.Runtime.InteropServices - 'Exception - from HRESULT: 0x80042444</p>	
<p>ファイルグループのプロパティウィンドウ内で、含むるファイルと除外するファイルに同じ拡張子が付いている。</p>	<p>ファイルグループのプロパティウィンドウで、含むるファイルと除外するファイルのリストに同じ拡張子が付いている場合があります。</p>	<p>ファイルスクリーニング 操作中に、含むるファイルのリストにあるファイルは除外するファイルのリストにあるファイルよりも優先されます。</p>

表 1-4 管理に関する問題 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
Backup Exec 10.x for Microsoft Windows Server 2003 x64 を実行しているサーバーを保護していると、 BERemote.exe が突然終了する。	Backup Exec 10.x for Windows Server を使用して Windows Unified Data Storage Server 2003 x64 を保護していると、 BERemote.exe が突然終了します。	Symantec は、Veritas のサポートサイト support.veritas.com に記載されている技術情報の記事 285187 でこの問題を扱っています。
クラスタからのノードの削除。	サーバー接続の管理 セクションのサーバーグループエントリを削除すると、LUN へのアクセスが自動的に削除されます。	クラスタからのノードの取り外し、取り付け、および削除の詳細については、ストレージシステムに付属の Dell PowerVault NX1950 クラスタシステムの『インストール&トラブルシューティング』を参照してください。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
サイズによるソートの操作が正常に行えない。	<p>PowerVault NX1950 管理コンソール では、行のソートが数値ではなく文字の値に基づいてソートされます。この問題が発生するのは以下のウィザードです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LUN の作成 ウィザードーサブシステムとタイプ • 共有フォルダの準備 ウィザードー共有フォルダの位置 • 記憶域の準備 ウィザードーLUN のタイプ <p>たとえば、列のソートを行うと 1, 2, 10, 20, 100, 200 の順ではなく、文字列値に基づいて 1, 10, 100, 2, 20, 200, ... の順になります。</p>	これは既知の問題です。

表 1-4 管理に関する問題 (続き)

問題	説明	回避 / 解決方法
Java RDP セッションを最小化した後、復元できない。	Java リモートデスクトッププロトコル(RDP)セッションを最小化すると、フルスクリーンモードに復元することができません。セッションの復元は不可能に見えます。	この問題を回避するには、ブラウザをいったん閉じて開きなおし、リモートシステムとのセッションを確立します。
分散ファイルシステム (DFS) レプリケーショングループの作成時に、次のエラーメッセージが表示の診断レポートでエラーが発生する。	The health report cannot be generated. Error HRESULT E_FAIL has been returned from a call to a COM component. (診断レポートを生成できません。COM コンポーネントへの呼び出しからエラー HRESULT E_FAIL が返されました。)	詳細については、Microsoft サポートサイト support.microsoft.com で技術情報の記事 912154 を参照してください。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
ゲートウェイソリューションで、 ドライブライトの点滅オプション を実行しても警告メッセージが返され、機能しない。	SAN ストレージマネージャ の使用中には、 ドライブライトの点滅オプション は機能しません。	設計どおりの正常な動作です。
LUN が割り当てられていると、 Microsoft 管理コンソール を使用してポート(WWN)の割り当てを解除することができない。	ポートの選択を試みる時に、LUN が以前に作成済み、またはアレイに割り当て済みの場合、 サーバー接続の管理 を使用してポートの割り当てを解除することができません。 この操作を試みると、 Microsoft 管理コンソール がクラッシュします。	これは既知の問題です。この問題を回避するには、 Microsoft 管理コンソール を閉じて再開するか、またはシステムを再起動します。
システムイベントログに、削除された LUN の EMC Powerpath® デッドパスが表示される。	Microsoft 管理コンソール から LUN を削除すると、システムイベントログに Powerpath のデッドパスエラーが表示されます。	システムイベントログ内の情報は、まだ削除されずにキャッシュに残っているディスクまたは LUN のどちらかです。このメッセージは無視してください。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
ゲートウェイ イソリュ ションで、 LUN の作成 ウィザード に表示され る使用可能 な空き容量 の値が正し くない。	総ストレージ容量 の 19 パーセント がオーバーヘッド 用に割り当てら れ、この部分には データを格納する ことができません が、これが使用可 能な空き容量とし て表示されます。	これは設計とおりの正常な動作です。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>Microsoft iSCSI スナップインを使用して、 Microsoft 管理コンソール 経由で iSCSI スナップショットを削除することができない。</p>	<p>ボリューム上にボリュームシャドウコピーを作成すると、そのボリューム上に存在する各 iSCSI 仮想ディスクについてスナップショットが作成されます。</p> <p>Microsoft iSCSI Software Target → スナップショット → アクティブなスナップショット の順に進むことで、 Microsoft 管理コンソール からスナップショットを表示、復元、またはマウントできます。</p> <p>この問題は、ボリュームシャドウコピーを持つボリュームに複数の iSCSI 仮想ディスクを導入した場合に発生します。このボリューム上の iSCSI スナップショットを削除しても、スナップショットは削除されず、別の iSCSI 仮想ディスクのスナップショットのコピーがリストに追加されます。</p>	<p>シャドウコピーから作成されたスナップショットを削除するには、シャドウコピー全体を削除します。</p>

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
クラスタからノードを削除しようとする、CLI エラーが発生する。	CLI コマンド <code>cluster node <ノード名> /forcecleanup</code> を実行すると、システムに、コマンドが失敗したことを通知するエラーが表示されます。	システムを再起動し、もう一度コマンドを実行してください。
ゲートウェイソリューションで GPT(GUIDパーティションテーブル)ボリュームの拡張が失敗する。	共有と記憶域の管理 ウィザード内で更新を行わずに GPT ボリュームの拡張を試みると、拡張は失敗します。	この問題を回避するには、次の手順を実行します。 1 拡張するボリューム上の共有を停止します。 2 ディスクの管理 ウィザードからボリュームパーティションを削除します。 3 共有と記憶域の管理 → ボリューム の順に進み、 更新 をクリックします。 4 ディスクの管理から GPT に変換します。 5 ディスクの管理から新しいボリュームをフォーマットし、ドライブ文字を割り当てます。 6 共有と記憶域の管理 コンソールを更新します。 これでボリュームの拡張が可能になりました。

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>ゲートウェイソリューションで、Dell EMC AX150 ストレージレイを最大限に拡張しようとすると失敗する。</p>	<p>パーティション分割されていない AX150 ストレージアレイ上に 2 TB の LUN またはボリュームを作成すると、最大限に拡張することができなくなります。この問題が発生するのは、共有と記憶域の管理 ウィザードを使用した場合です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Navisphere Manager から LUN を拡張します。 • ディスクの管理 または Diskpart ユーティリティからボリュームを拡張します。
<p>ゲートウェイソリューションで、LUN が 2 TB を超える場合、SAN 用記憶域マネージャ コンソールに表示される LUN のサイズが正しくない。</p>	<p>SAN 用記憶域マネージャ コンソールでは、2 TB を超える LUN はすべて 2 TB として報告されます。</p>	<p>これは既知の問題です。</p>

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>ゲートウェイソリューションで、LUN 拡張の最大サイズが増加する。</p>	<p>初期最大サイズとして報告される値は、それを構成する RAID グループの要件に基づいて拡張可能です。ストレージレイに拡張の操作を行うと、LUN 拡張の最大サイズとして報告される値が増加します。それは次のいずれか、または両方の理由によります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RAID グループの最大サイズを評価する際に、RAID グループのオーバーヘッドとして 5～7 パーセントが必要なため、API がセーフバッファゾーンを割り当てた。 • ディスクを追加して新しい RAID グループが作成された。 	<p>Navisphere Manager を使用して LUN サイズの上限を確認します。</p>

表 1-4 管理に関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
<p>ゲートウェイソリューションで、実際の LUN 拡張サイズが要求されたサイズを下回っている。</p>	<p>LUN が正常に作成されると、報告される LUN のサイズは 共有と記憶域の管理 ウィザードで要求される LUN のサイズを下回っています。</p> <p>API は最大 LUN サイズを評価する際にセーフバッファゾーンを割り当てます。最大 LUN サイズは RAID の種類によっても左右されます。オーバーヘッドは LUN サイズの約 5～7 パーセントです。たとえば、100 GB の LUN では、オーバーヘッドに 2 TB が割り当てられます。</p>	<p>Navisphere Manager を使用して LUN サイズの上限を確認します。</p>

アップグレードに関する問題

アップグレード中に発生する可能性のある問題とその解決方法を表 1-5 に示します。

表 1-5 アップグレードに関する問題

問題	説明	回避 / 解決方法
アップグレード中にファイアウォールを有効に設定すると、問題が発生する場合があります。	Windows Unified Data Storage Server 2003 Standard Edition から Windows Unified Data Storage Server 2003 Enterprise Edition へのアップグレード中に Windows ファイアウォールが有効に設定されていると、 Microsoft iSCSI Software Target コンソールにエラーが発生します。	アップグレードを開始する前にファイアウォールを無効にします。
仮想ディスクのインポート。	OS を再導入する前に LUN の割り当て解除を正しく行わないと、SCSI 予約のために既存の LUN が新しい OS で使用できないおそれがあります。	仮想ディスク上の SCSI 予約を手動でクリアする必要があります。 メモ ：仮想ディスク上の SCSI 予約をクリアするために必要なコマンドの詳細については、Dell PowerVault MD3000 Storage Manager の『コマンドラインインタフェースユーザズガイド』を参照してください。

表 1-5 アップグレードに関する問題（続き）

問題	説明	回避 / 解決方法
クラスタに加える前にノードに iSCSI 仮想ディスクを割り当てると、iSCSI Software Target コンソールがクラッシュする。	ノードをクラスタに加える前に iSCSI 仮想ディスクまたはターゲットを作成すると、 iSCSI Software Target スナップインがクラッシュします。	<p>以下の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Microsoft iSCSI Target Service を停止し、PowerVault NX1950 管理コンソール を閉じます。 cluadmin.exe → グループ → クラスタグループ の順に進みます。 クラスタグループ を右クリックし、新しいリソース を選択します。 新しいリソース ウィンドウで、サービスとして WinTarget と入力し、リソースの種類は 標準リソース を選択します。 依存関係 ウィンドウで、現在のシングルノードクラスタのクラスタ IP アドレスとクラスタ名を追加します。 次のレジストリキーを追加します： SOFTWARE\Microsoft\iSCSI Target WinTarget リソースを選択し、これをオンラインにします。 ファイアウォールを無効にし、%APPDATA%\Microsoft\MMC\nas2 にあるキャッシュファイルを削除します。 Microsoft iSCSI Software Target Service を開始します。 PowerVault NX1950 管理コンソール を起動します。

